



2026年6月11日

各位

会社名 株式会社ポプラ
代表者名 代表取締役社長 岡田 礼信
(コード番号 7601 東証スタンダード市場)
問い合わせ先 取締役常務執行役員経営企画室長 大竹 修
(TEL 082-837-3510)

取締役会の実効性評価の結果の概要に関するお知らせ

当社は、「コーポレートガバナンス・コード」に基づき、取締役会の実効性を高め、当社グループの持続的な成長と企業価値の向上を図ることを目的として、取締役会の実効性に関する分析・評価を行いましたので、その結果の概要をお知らせいたします。

記

1. 分析・評価の方法

2026年2月期を評価対象期間として、全取締役5名（うち社外取締役3名）及び全監査役3名（全員が社外監査役）を対象として、取締役会の実効性評価に関する趣旨等を説明の上、無記名でのアンケートを実施しました。その回答の集計結果をもとに、取締役会において議論・意見交換を行い、当社の取締役会における課題を共有し、今後の取り組みについて確認いたしました。

2. 評価項目

5部構成 全25問

設問ごとに4段階評価（最高4点～最低1点）及びフリーコメントによる

第1部「取締役会の構成」（3問）

第2部「取締役会の運営」（6問）

第3部「取締役会の議題」（8問）

第4部「取締役会を支える体制」（4問）

第5部「株主・投資家の目線を踏まえた経営」（4問）

3. 分析・評価結果の概要

上記評価の結果、当社取締役会は概ね適切に機能しており、取締役会の実効性は確保されていることを確認できた一方で、取締役会の構成については、複数の独立社外取締役および女性の取締役を選任すべき等の意見が、IR体制に関しては自社ウェブサイトを活用した情報提供をさらに充実すべきとの意見が多かったことから、引き続き取締役会での議論・監督を進め、企業価値向上に務めてまいります。

(1) 評価結果

	前回	今回	差異
第1部「取締役会の構成」	3.08 ポイント	2.90 ポイント	▲0.18 ポイント
第2部「取締役会の運営」	3.48 ポイント	3.24 ポイント	▲0.24 ポイント
第3部「取締役会の議題」	3.28 ポイント	3.20 ポイント	▲0.08 ポイント
第4部「取締役会を支える体制」	3.13 ポイント	3.21 ポイント	+0.08 ポイント
第5部「株主・投資家の目線を踏まえた経営」	2.97 ポイント	3.21 ポイント	+0.24 ポイント
平均	3.23 ポイント	3.17 ポイント	▲0.06 ポイント

(2) 項目ごとの分析

第1部「取締役会の構成」

当社の会社規模からすれば取締役会の人数は適切としながらも、独立社外取締役についてはコードを遵守して複数選任すべきとの意見が大半を占め、女性取締役についても約半数が選任すべきとの意見でした。今後の会社の成長を見据えて積極的に検討することを確認しました。

第2部「取締役会の運営」

取締役会の開催頻度や会議資料の内容など、取締役会の運営に関する項目については概ね高い評価が得られ、審議の状況についても「社外役員からは適宜適切な意見が述べられている」や「社外役員や平取締役も含めた活発な議論が行われている」などの意見が多く見られました。また、上程される議案の範囲や分量に関しては「適宜審議の必要な議案が上程されており適切である」との評価が大半である一方、「企業戦略の大きな方向性」についての議論を求める意見も一定数ありましたので、改善が必要であると考えております。

第3部「取締役会の議題」

経営陣幹部の報酬制度や選解任に関する議論の状況については概ね高い評価が得られましたが、経営課題の提示、対応策の審議を充実させるべきとの意見が多く見られましたので、改善が必要であると考えております。

第4部「取締役会を支える体制」

当社の社外役員は、独立した客観的な立場に基づく情報交換・認識共有がなされており、十分に情報共有が図られていることを確認しました。また、指名・報酬委員会の運用に関してはまだ改良すべき点はあるものの「当初の設計に沿って運用されている」あるいは「されつつある」との評価が多く見られました。

第5部「株主・投資家の目線を踏まえた経営」

「IR体制」に関しては今期一部対応が進んだものの、さらに「WEBを活用した情報提供や外部発信を強化すべき」との意見が、「株価を意識した取り組み」に関しては「中長期的な業績や企業価値向上に資するインセンティブ報酬について議論すべき」、「資本コストを意識した取り組み」や「事業ポートフォリオの見直し」に関しては「資本効率の低い事業の縮小・撤退の検討を進めるべき」との意見が多く見られました。

今後は収益力と資本効率のバランスを取りながら企業価値向上のための取り組みを進めるとともに、当社ホームページを中心に経営資源の最適配分に向けたシナリオを株主の皆様にはわかりやすく説明することで企業価値や業績が正しく株価に反映されるよう、取締役会で議論してまいります。

以上